

氏名	平 岡 恭 典		
学位(専攻分野の名称)	博 士 (医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2346 号		
学位授与の日付	平 成 3 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	Catecholamines in Experimentally Growth-retarded Rat Fetus (実験的子宮内発育遅延ラット胎仔におけるカテコラミン動態)		
論文審査委員	教授 産賀敏彦	教授 佐伯清美	教授 清野佳紀

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胎児はストレスに際し、自己の生命を維持すべくカテコラミン (CA) を分泌している。本研究では慢性ストレスの状態にあると考えられている子宮内発育遅延 (IUGR) 胎児の CA 動態を実験的ラット IUGR を用いて検討した。

胎仔血由来である羊水中ノルエピネフリン (NE)、エピネフリン (E) 濃度はともに正常発育群に比べ IUGR 群は有意な高値を示したが、その傾向は特に E に著明であり、IUGR 胎仔は高 CA 血症であると推察された。また胎仔副腎 E 含量は IUGR 群で有意な低値であったが、E 合成酵素活性は両群に差は認められず、IUGR 胎仔副腎 E の減少は分泌の亢進によるものと考えられた。さらに胎仔急性出血性ショック時の E 分泌能は IUGR 群では正常発育群に比し著しく減弱していた。

以上より、IUGR 胎仔は自己のホメオスターシスを維持すべく E を分泌しているが、その結果もたらされた副腎髄質 E 含量の減少により、IUGR 胎仔は急性ストレスに対する抵抗力が減弱していると理解された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は子宮内発育遅延におけるカテコラミンに関する研究であるが、実験的子宮内発育遅延ラットを用いて羊水中および胎仔血液中のカテコラミン動態を研究し、子宮内発育遅延におけるカテコラミンの意義について重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。